

令和7年度 福井県立道守高等学校 学校評価書(定時制)

(注): 成果と課題欄の記号について(◎十分に達成 ○おおむね達成 ▼目標達成できなかった)

項目	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
学習指導	学習内容を精選し、分かる授業の工夫に努めることにより、生徒の授業の理解度および単位修得率の向上を図る。	◎授業の工夫による生徒理解度についての目標指標(取組・成果・満足度各85%)に対し、教職員(100%)・生徒(87%)・保護者(86%)と回答しており、十分に達成できた。生徒の学習意欲を考慮した教師側の授業改善の姿勢について、保護者も理解していると考え。 ○生徒の単位修得率の向上に向け、生徒と教員間の連絡をより一層密にしていける必要がある。	・学習内容の基礎基本を押さえながら、生徒が興味関心を持ち、かつよく分かる授業づくりを目指す。 ・生徒の学力にばらつきがあることから、きめ細やかな個別指導や進度に応じた学習支援が必要である。そのため教員が生徒一人ひとりと向き合うための時間を増やす工夫をしなければならない。
	生徒、保護者、教員間の連携を密にし、生徒の出席状況について共通理解に努める。	◎生徒出席状況の共通理解についての目標指数(取組90%・成果80%・満足度80%)に対し、教職員(100%)・生徒(86%)・保護者(95%)と回答しており、十分に達成できた。教職員と保護者の間で生徒の出席状況についての共通理解ができていると考える。	・自らの出席状況を常に把握しているという基本的な態度が単位修得のための必要条件である。このことを生徒に理解させる。 ・生徒の出席状況や学習状況については、所定の保護者懇談会や進路相談会に限らず、教員から保護者に情報を適宜提供し、共有する。
生徒支援	社会生活における基本的な生活習慣を確立させるとともに、スマートフォンの使い方、SNSの利用マナーなどの規範意識を高めさせる。	◎授業中のスマートフォン使用、私語、飲食の禁止など規範意識を持って学校生活を送ることができたかを確認した結果、昨年に引き続き教職員の取組指数100%、生徒の成果指数94%と高い結果となった。授業の重点目標を繰り返し周知することで望ましい態度が定着しつつあると思われる。一方、6%の生徒が授業での重点目標を守ることができなかったと振り返っている。生徒の成果指数100%定着を目指し継続指導をする必要がある。	・落ち着いた授業を来年度も継続していくためには、授業での重点目標を年度当初に周知徹底し、今後も継続していく。特にスマホの使用については、SNSでのトラブルが多い状況が続いている。社会で起こっていることを指導に取り入れ、落ち着いた生活ができるように支援する。
	学校行事や部活動に生徒自らが主体的に取り組もうとする態度を培わせる。	◎教職員の取組指数は100%と非常に高かった。この結果は、学校祭や遠足などの学校行事、日々の部活動など、生徒の実態に沿った指導を工夫して行った成果と思われる。また、保護者への学校行事や部活動に参加しやすい環境の認知度を問う質問では満足度指数が94%となり、学校行事や部活動の環境に対する理解も進んでいると思われる。 ○生徒への「学校行事に積極的に参加したり、部紹介や壮行会を通して部活動について理解できましたか」という項目については成果指数は86%で昨年度より3%上昇した。学校生活が充実したものになるよう、授業以外でも学校の魅力を引き続き発信していく必要がある。	・学校行事や部活動の紹介を丁寧に行い、写真や掲示物を用いて周知を図る。また積極的に生徒を勧誘することも大切と感じる。 ・HP等で学校行事や部活動の生徒の活躍状況を積極的に発信していく。 ・アルバイトと部活動を両立できるよう、部員の状況を把握しながら部活動の活動時間の確保・調整を進める。
進路支援	進路図書部、担任、教科担任および関係機関との連携を密にし、生徒の状況に応じた進路指導を行うことにより、生徒の進路実現に努める。	◎教員が生徒保護者と進路の話をしたと答えた割合は100%であり、目標を達成している。保護者が子供と進路の話をした割合は78%と昨年を下回った。生徒が先生や保護者と進路の話をしたと答える割合は82%であり、目標を達成している。これは、総合的な探究の時間における進路指導を含めLHなどで進路指導を続けたことで担任と進路について話す機会を確保できたためと思われる。今後は生徒と保護者が進路の話をする機会をより重点に据えながら、継続して各機関と連携し、進路実現を図っていく必要がある。	・生徒や教員が必要な情報を得るために、今後も、継続して資料閲覧や掲示の環境を整備する。 ・担任、関係機関と連携し、生徒がスムーズに助言や支援を受けられるようにする。 ・進路希望調査の実施や担任と連絡を密にすることで、悩んでいる生徒に早い段階で気づき、解決を図る。
	各学年に応じた進路ガイダンス等を実施することで、早い段階から生徒に自分の進路についての興味や関心を高めるように努める。	◎キャリア教育講演会や進路ガイダンス、職業体験説明会などで進路について考えた生徒の割合は82%になり、2年続けて増加している。これも継続して行ってきた進路指導を計画的に実施した成果である。今後も生徒が進路についてより一層関心を高められるよう、担任が計画的により充実した進路指導が行える支援をすることが課題である。	・今後も早期から進路指導を積み重ねる。 ・担任がクラス単位でより充実した進路指導ができるよう支援する。 ・中小企業家同友会や関係諸団体等と連携し、学年会と協力しながら系統的体制的に支援する。
読書活動の推進	図書だよりの発行や推薦図書の掲示などを充実させることにより、生徒の読書に対する興味・関心を高める。	▼教員については、図書室を授業やLHで利用した割合は56%であり、目標を下回ったものの昨年の45%と比べて増加している。引き続き、授業やLHにおいて、積極的に図書室を利用してもらうよう働きかける必要がある。 ○図書だよりの発行や推薦図書の掲示などを見て、読みたいと思う本があったと答えた生徒は52%であり、昨年度よりも3%減少したものの目標を達成することができた。今後も継続して「図書だよりの発行や各種企画の実施、書籍の配置を工夫して、生徒の読書に対する興味・関心を高めていく取り組みをしていく。	・「図書だよりの発行や「図書購入希望調査」などを通して生徒に興味・関心をより喚起する。 ・来年度も気軽に入りやすい図書室にする。 ・引き続き、授業や総合的な探究の時間、LHでの積極的な図書室の利用を、教員に呼びかける。

心身の健康管理	個別指導を重視し、保健室来室者への指導を充実させるとともに、保護者と連携しながら健康診断結果に基づく指導に努める。	◎教員の取り組みについては昨年度の97%から100%へ上がり、目標を十分に達成できた。感染症対策や熱中症対策など、引き続き全教員に周知徹底することにより、校内全体で健康管理について高い意識を持続していく必要がある。 ◎生徒の取り組みは、昨年度の96%から88%に下がっているが、目標は達成できた。今後もマスク着用や手指消毒などの感染症対策や健康管理についての意識を高めるよう指導を行っていきたい。	・健康診断結果に基づく医療機関への受診の促進を、保護者との連携を図りながら継続的に実施する。 ・保健だよりや電子掲示板、掲示物による情報発信と、保健室来室者への個別指導を通して、健康管理と感染症対策に関するより一層の意識向上に努める。
	清掃活動の習慣が定着するよう指導し、生活環境の美化に対する意識を高める。	◎積極的に清掃指導を行った教員は97%から100%へ上がり、清掃への取り組みのよい生徒は93%という良好な結果となった。積極的に取り組んだという回答の割合が高いというアンケートの結果からは、清掃の習慣をつけることができているといえる。	・清掃については、担任および清掃監督教員のきめ細かな指導が不可欠であるため、改善点があれば考慮しつつ指導がしやすい清掃割当を工夫する。
メンタルケアの充実	教育相談についての校内研修を充実させ、教師一人ひとりの技量を向上させると同時に、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等と積極的に連携し、生徒・保護者への支援体制を充実させる。	◎教員の取り組みは100%と高く維持できており、また、生徒や保護者への教員の対応についても、生徒と保護者どちらの満足度も目標を大きく上回った。今年度は、本校のスクールカウンセラーと福井県特別支援教育センターの指導主事による教育相談研修会を実施した。教員が継続して生徒理解を深め効果的な指導法を知ることで、悩みを持つ生徒の心のケアに努める資質を養うことができる。今後も教員はカウンセリングマインドを身につけ、相談室は悩み事を相談しやすい体制を整えて、多様化・深刻化している生徒の悩みを早期に受け止め支援していく必要がある。	・今後も具体的な事例に即した研修会を行い、生徒理解を深めたり効果的な指導法を知ったりするなど、教員一人一人の技量の向上と教員間の情報共有等の連携強化を目指す。 ・学校単独で対応の難しい事例については、関係機関との連携を進めることで、適切に対処する。
ICTの活用	教員が授業やLHなど様々な場面でICTを活用するとともに、生徒一人ひとりがタブレット端末を積極的に活用できるよう支援する。	◎教員のICT活用や生徒のタブレット活用についての目標指数(教職員80%・生徒50%)に対し、教職員(97%)・生徒(87%)と回答しており、達成できた。ほとんどの教員がICTを活用し、多くの生徒がタブレット端末を使うことで授業内容への興味・関心を高めている。	・日々進化する機器や教授法について、今後も研修の機会を設け、最先端の情報にアップグレードする必要がある。
連携	学校より発信した情報への、保護者の関心を高める。	○学校からの配布物を確認している保護者は84%で、今年度も目標を達成することができた。学校からの案内や育友会報などの紙媒体での保護者の閲覧率は高いといえる。	・社会全体の情報入手先が紙媒体からデジタルへと移行している中、紙媒体の閲覧率の向上だけではなく、情報提供のあり方全般について検討していく。